

- 1 薄氷や月のあかりの縞模様
- 2 海鳥の低く飛びたる余寒かな
- 3 料峭の彗星の尾の長さかな
- 4 追ひ越してゆく風ありや春寒し
- 5 先達に風強かりき午祭
- 6 文様を解かざる春の氷かな
- 7 半島を春の嵐の越えにけり
- 8 豆ひろふ役目ありけり鬼やらひ
- 9 三月のしなやかな風吹きにけり
- 10 卒業の幕納めたる木箱かな
- 11 残雪の角櫓より落ちにけり
- 12 物置にふりわけにしてみもの種
- 13 中庭の四角くありて霜の果
- 14 羽州連山光の春となりにけり
- 15 水流に佐保姫耳を澄ましけり
- 16 町割に鈎形の路地花の冷え
- 17 海の色変はりて淡き花盛り
- 18 摘みとりし色の深さや草の餅
- 19 川船の市松模様さくらもち
- 20 堰堤にひとかたまりの花筏
- 21 桜葉降る石庭の波間かな
- 22 客船の通り過ぎたる海市かな
- 23 朧夜のあまねくつつみこみにけり
- 24 和時計の天秤もどりくる春日
- 25 風船の深き軒端にとどまれり
- 26 紙屑のころがりて風光りけり
- 27 笹の葉のくると戻る粽かな
- 28 永き日の砂浜沖へ広がれり
- 29 海渡り来て麦の香のありにけり
- 30 上流に民話の地あり桐の花
- 31 白壁にひかりのよする若葉風
- 32 石段の海に沈みし青葉潮
- 33 夏落葉手水の縁にとどまれり
- 34 山間に三日月形の植田かな
- 35 遠山に夜の明きらぬ走り梅雨
- 36 木の下にあかるき青葉時雨かな
- 37 時の日のひかりうけたり砂時計
- 38 さみだるる大河の先の港かな
- 39 うしろから風吹いてくる夏柳
- 40 青鷺の浅瀬を渡りきたりけり
- 41 太陽を浴びてしまひし黴の花
- 42 青田より青田をつなぐ旧街道
- 43 手のひらを水草の花こぼれけり
- 44 遠泳の波に消えたる巖かな
- 45 明急ぐひかりの中の月あかり
- 46 縄文の人手にとりし真桑瓜
- 47 紅蓮のひらきかけたる光堂
- 48 空うつすまるき墓標や月見草
- 49 裏町に鬼灯市をあぶれたる
- 50 追ひついて通りすぎたる夕立かな

75 沿線に星の駅名賢治の忌
 74 岩を打つ水音に秋澄みにけり
 73 千年の水の流れのさやかなり
 72 爽やかや分かれ道ある港町
 71 横書きの茶の本岡倉天心忌
 70 川底の石つたひたる鰍かな
 69 越えてゆく川の兩岸曼珠沙華
 68 空き瓶にのこりし絵具休暇果つ
 67 白芙蓉半島に風吹くばかり
 66 篝火を遠くに亡者踊かな
 65 用水のあつまる川や流燈会
 64 海分かつ一艘の船赤のまま
 63 新涼の湖にかはらけ舞ひにけり
 62 足跡の消え去りてより秋の潮
 61 草原のなかほど倒す初嵐
 60 夏安居に鉄扉のすきま光りけり
 59 祭髪とかざれば眼の澄みにけり
 58 祭提灯港の坂をのぼりくる
 57 天幕の元禄模様神輿宿
 56 山鉾の先あらはるる坂の道
 55 路地抜けて祭りの中に出でにけり
 54 路地裏に入りても祭囃子かな
 53 石垣に不揃ひの石青蜥蜴
 52 大陸の浜辺へかへす土用波
 51 世話役の古式泳法雲の峰

100 足元に鈴の音したる酉の市
 99 極洋に漕ぎ出だしたる小春かな
 98 魚影来て十一月の水の中
 97 水流の押へがたきや蓮根掘り
 96 静かなる時刻みけり初しぐれ
 95 冬に入る葉の色の白さかな
 94 サフランの糸屑はらひのけりたり
 93 新走あざやかなりしところ酌む
 92 流星や水あるところ白々と
 91 海境を見下ろすほどの鷹柱
 90 白き柄の飛び出してをり茸籠
 89 やはらかき山に入りたる茸狩
 88 稜線を逸れ静かなる月夜茸
 87 笑ひ茸アルペンホルンに飛ばさるる
 86 闇つかむごとき夜長の踊かな
 85 触角の長さばかりのかまどうま
 84 家々の闇にまぎるるちちろ虫
 83 飛び石のひとつにかかる萩の花
 82 星流れ象潟の海広がれり
 81 海猫帰る島には石の大鳥居
 80 銀漢のまぢかき山の祈祷かな
 79 暁闇の水にしたがふ下り鮎
 78 軒低き町家に低き秋つばめ
 77 一本の色たがへたる竹を伐る
 76 西方に日の沈みたり一遍忌